

令和3年度漂着ごみ組成調査結果について

1 概要

海岸漂着ごみの組成及び量並びにこれらの経年変化を把握し、漂着ごみの実態把握及び今後の漂着ごみ発生抑制対策を効果的に実施するため、2021年度に県内3地点において漂着ごみ組成調査を実施した。

調査地点は、閉鎖性水域である「伊勢湾」及び「三河湾」、並びに外洋に面した「遠州灘」から選定した。

また、調査方法は、環境省水・大気環境局水環境課海洋環境室から示された「地方公共団体向け漂着ごみ組成調査ガイドライン（2020年6月第2版）」（以下「ガイドライン」という。）に準じて実施した。

なお、本調査は「海岸漂着物処理推進法（美しく豊かな自然を保護するための海岸における良好な景観及び環境並びに海洋環境の保全に係る海岸漂着物等の処理等の推進に関する法律）」第22条で規定する「地方公共団体による海岸漂着物等の発生の状況及び原因に関する調査」に位置づけ、2020年度から実施している。

2 調査地点

(1) 伊勢湾

小鈴谷海岸（常滑市小鈴谷）

(2) 三河湾

春日浦海岸（蒲郡市形原町）

(3) 遠州灘

西七根海岸（豊橋市西七根町）

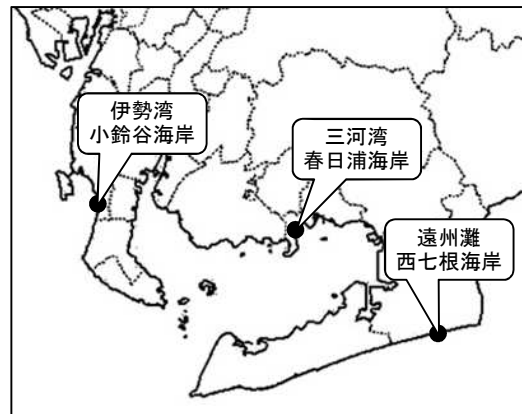


図1 調査地点

3 調査方法

(1) 調査範囲

汀線方向の幅を50mとして、調査時の海岸汀線から海岸の后背地（植生があるところ）までの間を対象とする。

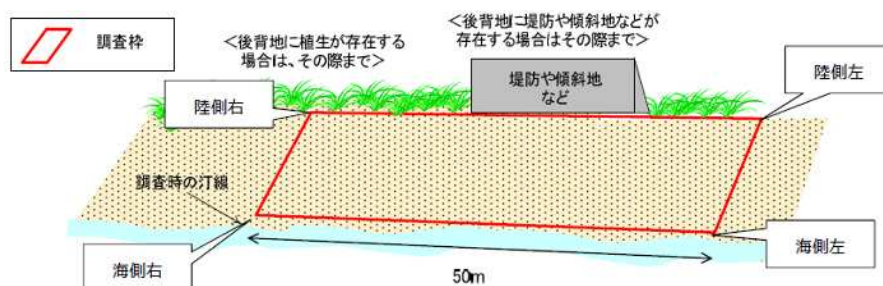


図2 漂着ごみの調査範囲

(2) 調査対象ごみ

長さ 2.5cm 以上のごみを調査対象として、回収する。

(3) 分類・計測

回収したサンプルをガイドラインの「漂着ごみの分類表」により分類した。また、ペットボトル、そのキャップ及び漁業用の浮子の表記言語などから、製造国の分類も併せて実施した。

分類した漂着ごみは、項目ごとに個数、重量、容量を計測した。なお、元の製品が推定できない場合は破片に分類し、個数として計測しない。



ペットボトル



容器のふた



漁具



発泡スチロール



灌木

図3 漂着ごみの分類状況

4 調査結果

(1) 小鈴谷海岸（伊勢湾／常滑市小鈴谷）

① 漂着ごみの組成など

調査は図4で示す場所で2021年11月10～11日に実施した。

調査前の海岸の状況は、図5のとおりであった。

調査で回収した全漂着ごみは、重量が約1,300kg、容量は約11m³、個数は1,036個であった。

自然物と人工物の組成について、重量及び容量は自然物が9割以上を占めてい



図4 小鈴谷海岸調査地点
(出典：国土地理院)

たが、個数では人工物が約9割を占めた。

人工物の組成（図6）について、容量は木・木材系が約54%と最も大きかったが、重量及び個数ではプラスチックがそれぞれ約55%及び約95%と最も多かった。

プラスチックの組成（図7）では、容器包装が重量、容量及び個数とも約5～8割を占め最も多かった。



図5 調査前の小鈴谷海岸

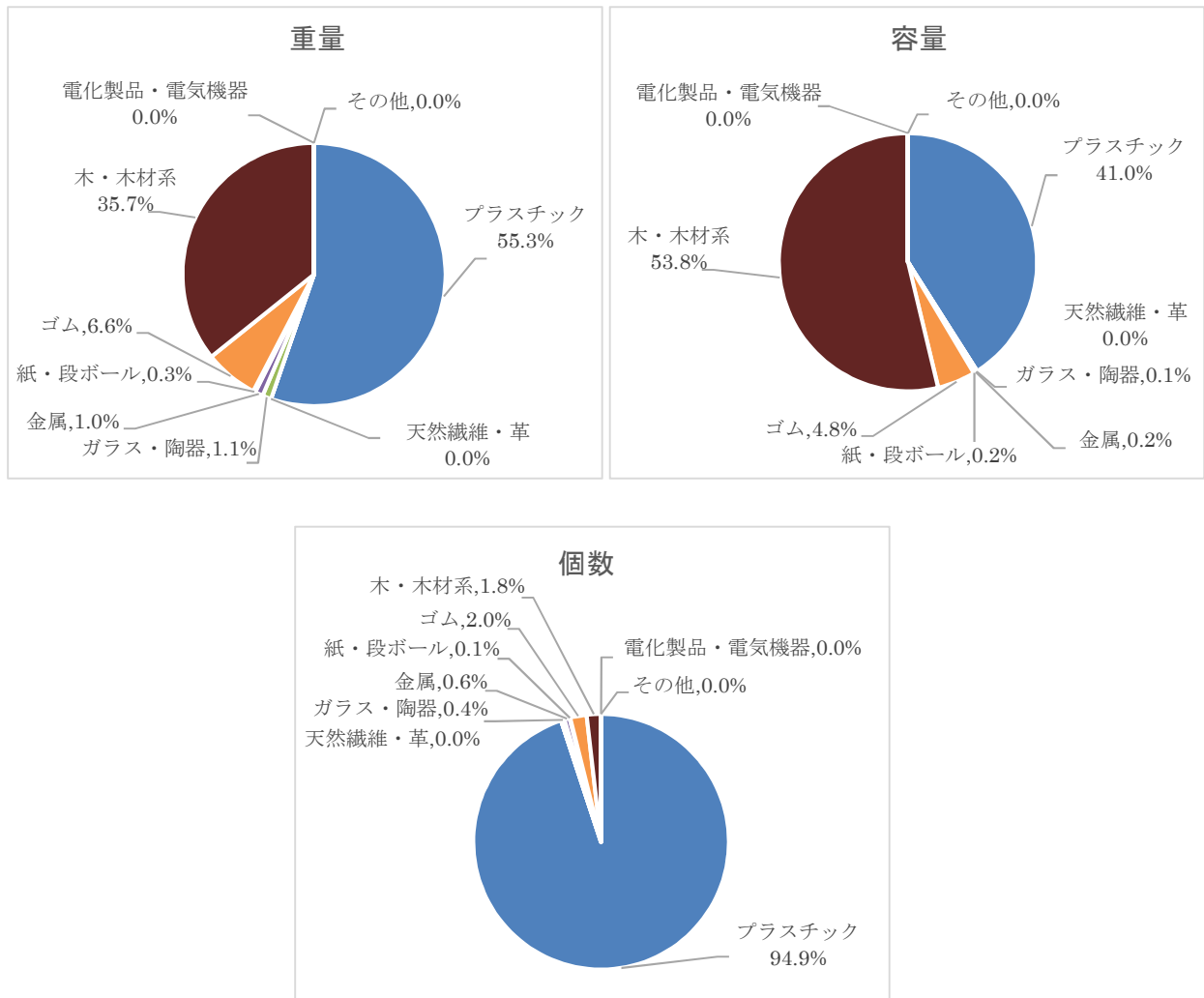


図6 人工物の組成

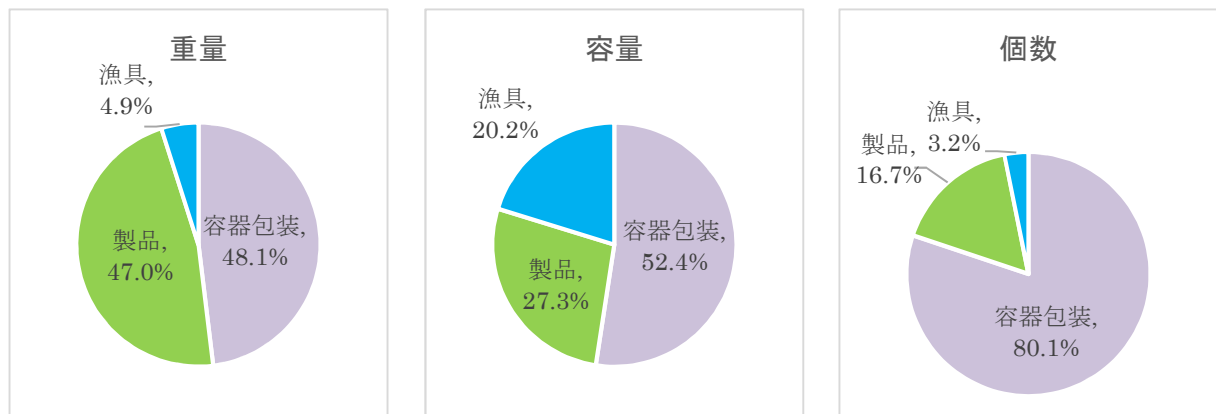


図7 プラスチックの組成

② 漂着ごみの製造国の分類

漂着ごみの内、ペットボトル等の製造国は、国内製が64個と多くみられ、外国製が1個、不明が50個であった。

(2) 春日浦海岸（三河湾／蒲郡市形原町）

① 漂着ごみの組成など

調査は図8で示す場所で2021年12月8日に実施した。

調査前の海岸の状況は、図9のとおりであった。

調査で回収した全漂着ごみは、重量が約20kg、容量は約0.2 m³、個数は110個であった。

自然物と人工物の組成について、重量及び容量は自然物が100%近くを占めたが、個数では人工物が100%近くを占めた。

人工物の組成（図10）は、重量、容量及び個数ともプラスチックが9割以上を占めた。

プラスチックの組成（図11）では、製品が重量で約6割、容量及び個数で約5割を占めた。



図8 春日浦海岸調査地点
(出典：国土地理院)



図9 調査前の春日浦海岸

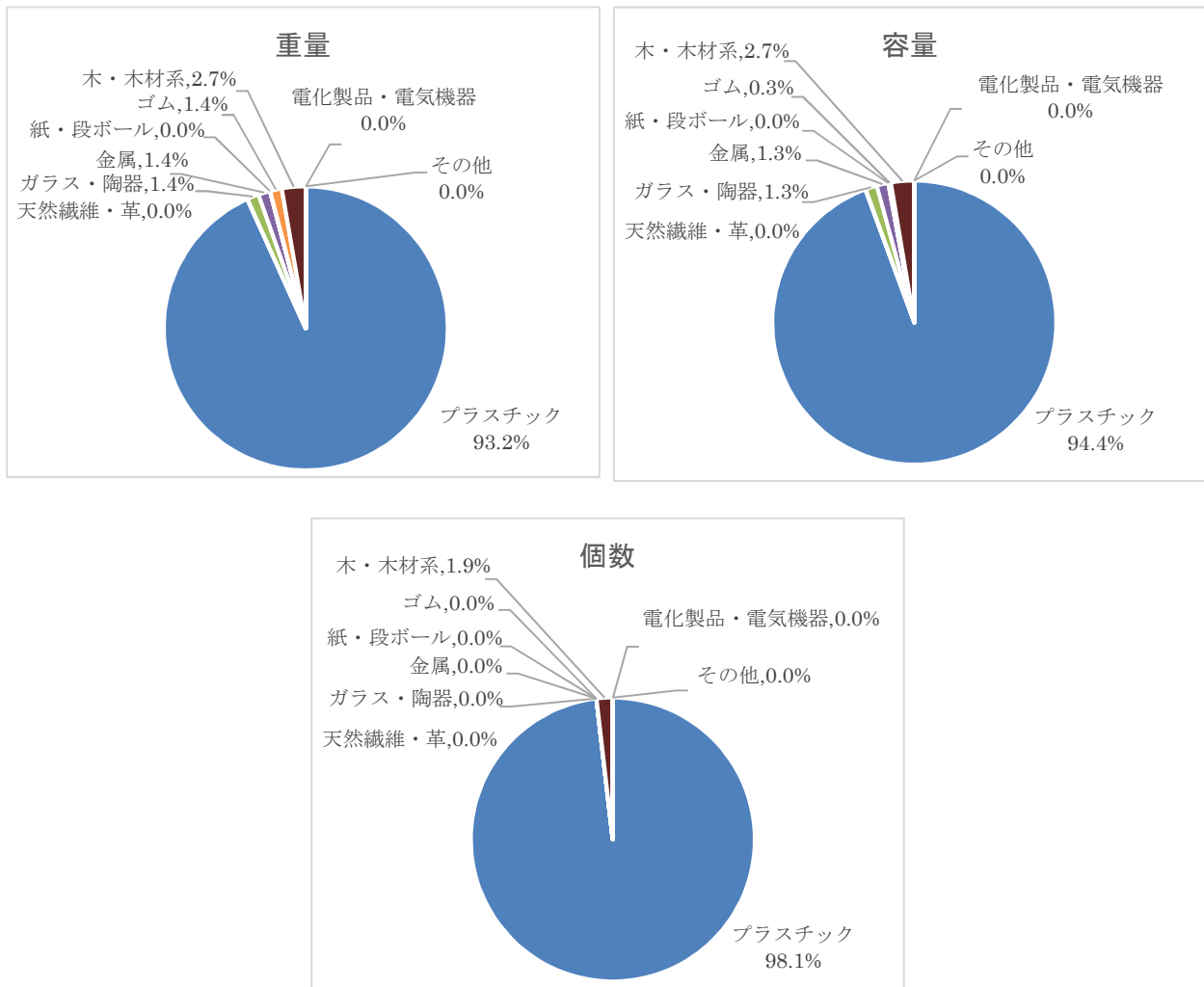


図 10 人工物の組成

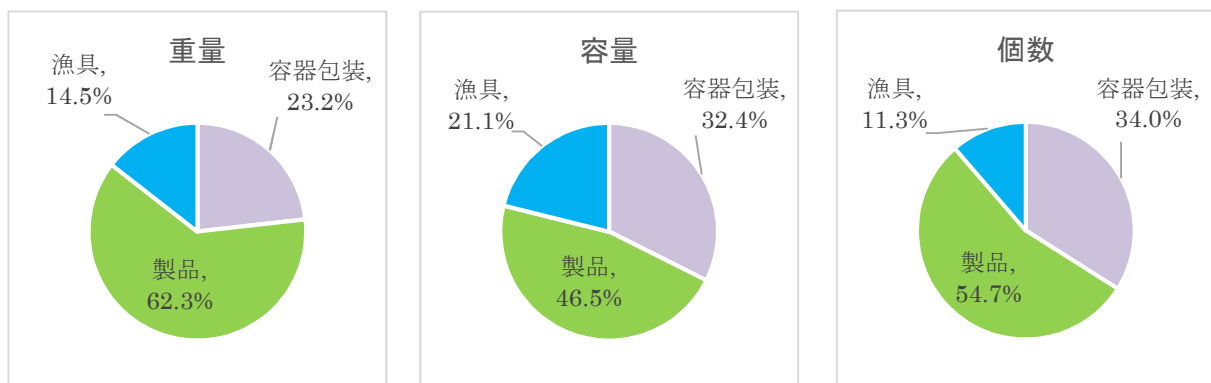


図 11 プラスチックの組成

② 漂着ごみの製造国の分類

漂着ごみの中、ペットボトル等の製造国は、国内製が4個で、外国製が0個、不明が4個であった。

(3) 西七根海岸（遠州灘／豊橋市西七根町）

① 漂着ごみの組成など

調査は図 12 で示す場所で 2021 年 11 月 9 日に実施した。

調査前の海岸の状況は、図 13 のとおりであった。

調査で回収した全漂着ごみは、重量が約 70 kg、容量は約 1.2 m³、個数は 158 個であった。

自然物と人工物の組成について、自然物の重量及び容量が 9 割以上を占めていたが、個数では人工物が 8 割以上を占めた。

人工物の組成（図 14）は、プラスチックが重量の 6 割以上を占め、容量は約 8 割、個数は約 9 割と最も多かった。

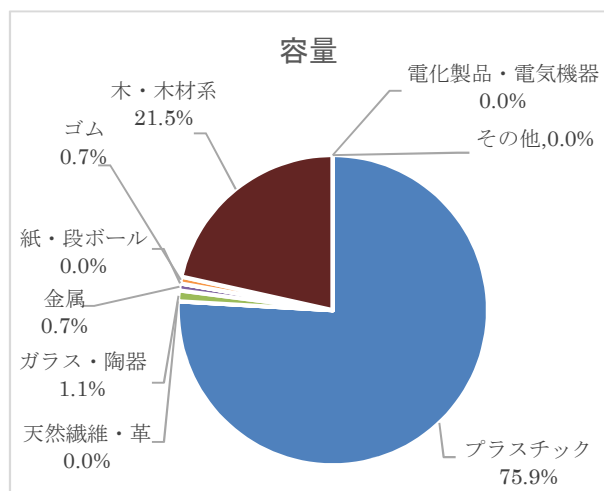
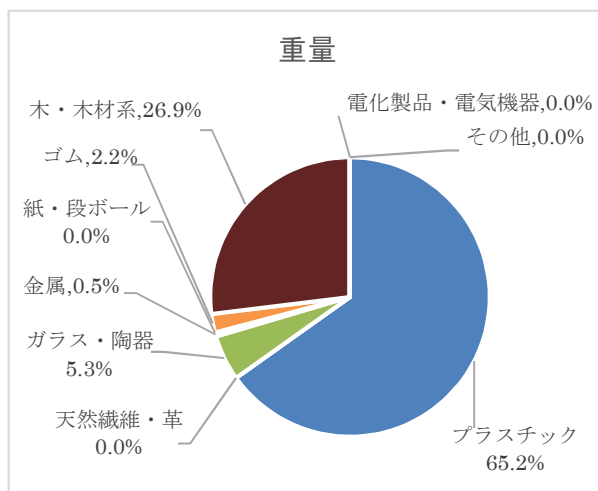
プラスチックの組成（図 15）について、重量及び容量は、漁具がそれぞれ約 6 割、約 7 割を占めたが、個数は容器包装が約 6 割を占めた。



図 12 西七根海岸調査地点
（出典：国土地理院）



図 13 調査前の西七根海岸



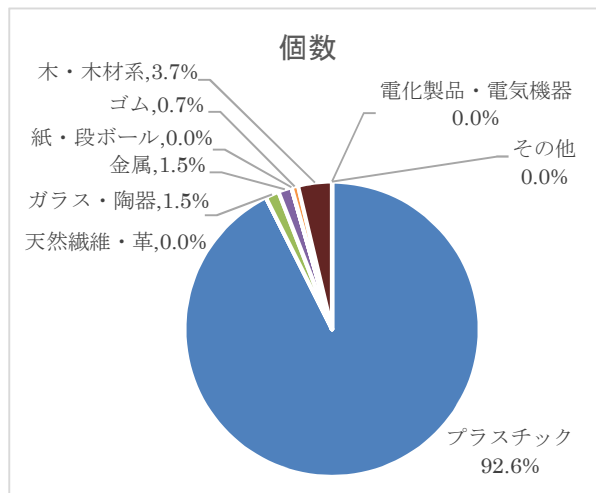


図 14 人工物の組成

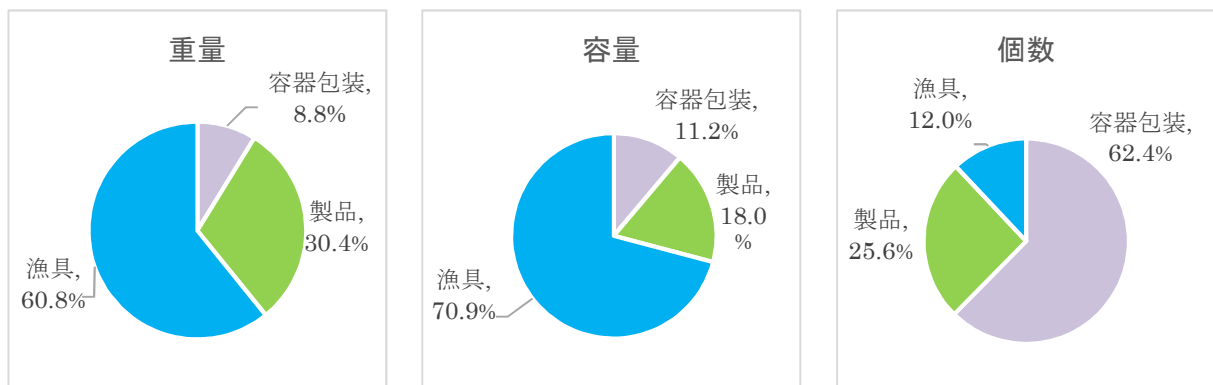


図 15 プラスチックの組成

② 漂着ごみの製造国の分類

漂着ごみの内、ペットボトル等の製造国は、国内製が3個で、外国製が7個、不明が7個であった。

5 まとめ

- 伊勢湾、三河湾、遠州灘とも、流木など大型の漂着物になりやすい自然物が重量及び容量の多くを占めるが、個数については人工物が多くを占めていた。
- 人工物に占める重量及び個数について、3海域ともプラスチックの割合が最も多かった。
- 伊勢湾については、プラスチックの内、容器包装が重量、容量及び個数とも最も多くを占めていた。三河湾については、プラスチックの内、製品が重量、容量及び個数とも最も多くを占めていた。遠州灘については、プラスチックの内、重量及び容量は漁具が、個数は容器包装が最も多くを占めていた。
- ペットボトル等の製造国では、伊勢湾及び三河湾では国内製のものが多く、遠州灘は外国製のものが多かった。